

「仏教聖典」に於て、仏教用語 として、用いられた英語につ いて。 — その一部

大 森 孝

On the English words used for the Buddhist words in “The Teaching of Buddha”

— A Part of those ones

T. Ōmori

「仏教聖典 (The teaching of Buddha)」(仏教伝道協会発行, 1968), の中に用いられた英訳の仏教用語の主なものについて, その一部を語義の上から, 述べて見たいと思う。其の用語の日本語的解明については筆者の専門とするところでない故, 辞書的, 一般的意味に止め, その由って来たる英語について, 少し述べてみようとする。

Omen (瑞相) について。

American College Dictionary (以下, A, C, D と省略) によると次の様に述べてある。

anything perceived or happening that is regarded as portendi-

ng good or evil or giving some indication as to the future。即ち、「将来について、善悪を前以って示したり、或る方向を与えると考えられていると、認められ、又生じたりする何か、」と云う事になる。

Webster's Essential English Dictionary (以下W, E, E, Dと略す)によると、a happening believed to be a sign or warning of a future event.とある。即ち、

「未来の出来事の前兆、又は、警告と信じられる出来事。」と云う意味になる。

Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary (以下K 'N, E, Dと略す)によると、「前の知らせ、予言、前兆、縁起」とある。

Obunsha's Senior English Dictionary (以下O, S, E, Dと省略)によると、a sign that something good or bad is going to happen.とある。

Webster's New International Dictionary (W, N, I, Dと以下省略)によると、an occurrence or phenomenon supposed to portend, or show the character of some future event.とある。

以上考えてみるに、善悪につけ将来、何かが起る事を、前もって示す何か。と云う事になる。何かの中には、出来事もあるし、現象も含まれる。

(a) to embrace a religious life (出家する)について。

embraceについて考えてみると、A, C, Dによると、to take or clasp in the arms, to adopt (a profession, a religion, etc.)とある。此の場合、単に抱くと言う意味より、後の宗教的なものを、取り入れる、と言う意味に用いられていると、考える。

W, E, E, Dによると、to clasp in the arms. to take up. to adopt. とあるが、宗教的教理等を取り入れる時、多く用いるとは、述べら

れていない。

O, S, E, Dによると, **hold in one's arms** とあり, 外に **accept** と云う意味があり, これに **christianity** と云う例がある。

W, N, I, Dによると, **to clasp in the arms, as with affection. to take up. to adopt.** とある。以上考えてみるに, **embrace** は抱く と云う一般的意味以外に, W, N, I, Dに見られる様に, 愛情をもつて抱く, と云う意味に用いられ, 特に, 教理を取り入れる, と云う意味より, 宗教用語として, 用いられていると思う。

即ち, 宗教的生活を, 取り入れる, と云う意味より出家する, と云う意味が出て来ると思う。

(b) 出家すると云う別な述べ方に **to become a homeless recluse** がある。**recluse** について述べて見ると,

A, C, Dによると, **a person who lives in seclusion or apart from society, often for religious meditation.** とある。

即ち, しばしば, 宗教的沈思の為, 閉ちこもり, 社会から離れて生活している人, と云う意味である。

W, E, E, Dによると, **a person who lives away from others.** とある。

O, S, E, Dによると **a person who lives apart from the world.** とある。

W, N, I, Dによると, **a person who lives in seclusion, as a hermit or monk. one who leads a retired life, with few social contacts.** とある。

以上考えてみるに, 世を捨てた人。隠とん者, と云う意味に用いられて居り, 殊に, A, C, Dや, W, N, I, Dに見られる様に, 宗教的意味

に用いられている。

enlightenment (悟り) について。

A, C, Dによると, **act of enlightening** とある。それ故, **enlightenment** について考えて見るに, 同上によると, **to give intellectual or spiritual light to ; instruct ; impart knowledge to.** とある。

W, E, E, Dによると, **to give knowledge to. free from ignorance.** とある。

K, N, E, Dによると, 啓発する。教化する。とある。

O, S, E, Dによると, **give more knowledge to.** とある。

W, N, I, Dによると, **to make to shine or give light. to shed the light of truth and knowledge upon.** とある。

以上により考えるに, より多くの知識を与えると云う一般的意味から, W, E, E, Dに見られる, 無知からの解放となり, 更に W, N, I, Dにある様に, 真理の光を与える, となり, それから, 教化すると云う宗教的意味に用いられる様になった, と考える。その行為が, 悟り, と云う意味に用いられていると思う。

mendicant (出家) について。

A, C, Dによると, **one who lives by begging.** とある。

O, S, E, Dによると, **a beggar. a begging friar.** とある。

W, N, I, Dによると, **a beggar. one who makes a business of begging.** とある。

以上考えてみると, 人に物を乞いながら, 宗教上の修行をして行く人, と云う意味に考えられる。

follower. devotee. (信者) について。

先に **follower** について述べて見ると,

A, C, D, によると, one who follows another in regard to his ideas or belief. とある。

W, E, E, Dによると, to do the same thing someone else has just done. とある。

O, S, E, Dによると, a supporter of the beliefs or teachings of another. とある。

W, N, I, Dによると, one who follows. とある。

次に devotee について見ると,

A, C, Dによると, one ardently devoted to anything. one zealously or fanatically devoted to religion. とある。

O, S, E, Dによると, an enthusiastic fan or supporter. とある。

W, N, I, Dによると, one zealously devoted. one zealously given to religious duties and ceremonies. とある。

以上二つの語を比べてみると, devotee の方が follower より意味が強くなると思われる。follower の方が, より一般的な意味の信者と, 解される。

transiency (無常) について。

A, C, Dによると, transient state or quality とある。

では, transient とは, 同上によると, passing with time not lasting or enduring. lasting but for a short time. とある。

W, E, E, Dによると, transient については, not lasting or staying long. とある。

O, S, E, Dによると, not lasting. temporary. とある。

W, N, I, Dによると, passing quickly from existence. not s-

ettled or established. とある。

以上考えてみると、transient の名詞の transiency は、時と共に経過し、長つづきしない状態を、云う意味になる。

benevolence (慈悲) について。

A, C, Dによると、desire to do good for others. an act of kindness. とある。

W, E, E, Dによると、kindness. generosity. とある。

O, S, E, Dによると、good will. mercy. とある。

W, N, I, Dによると、the disposition to do good, good will. とある。以上考えてみると、他人に対して、善をなそうとする希望、好意親切、と云う意味になる。尚、慈悲について、新仏教辞典（中村元監修）によると、梵語の maitreya, karunā の訳であり、maitreya (慈) は、mitra (友) と云う語からつくられた抽象名詞で、最高の友情というべきものであり、特定の人でなく、すべての人々に、友情をもつ事が「慈」である。又、karunā の原意は「呻き」であり、人生の痛苦に呻き、嘆いた事のある者のみが、苦しみ悩んでいる者を、真実に理解出来、その苦しみを、いやす事が出来るのであり、その同苦の思いやりを「悲」と呼ぶ。と述べてある。

以上、考えてみると、benevolence と云う訳語が、慈悲の意味を、どの程度表わしているか疑問である。

慈悲の別の英訳に、compassion がある。

A, C, Dによると、a feeling of sorrow or pity for the sufferings or misfortunes of another. とある。

W, E, E, Dによると、sorrow or pity for another. とある。

O, S, E, Dによると、sorrow and pity for the sufferings of

others. とある。

以上についてみると、一般的意味の他人に対する同情を、意味しているが、前の *benevolence* に比較して、原語の *karunā* の意味が強く出ていると思う。

worldly desires (煩惱) について。

先づ *worldly* について、考えてみると、

A, C, Dによると, *secular (as opposed to religious, etc.) earthly (as opposed to heavenly, spiritual, etc.)* とある。

W, E, E, Dによると, *of relating to this world.* とある。

O, S, E, Dによると, *of this world. devoted to the things of this world.* とある。

W, N, I, Dによると, *of or belonging to this world or existence in this world. not heavenly or spiritual.* とある。

以上考えてみると、高尚な、精神的なものではない、非宗教的意味、俗世間的な意味と、思われる。

次に, *desire*について、考えてみると、

A, C, Dによると, *a longing or craving. something desired. sensual appetite.* とある。

W, E, E, Dによると, *a strong wish. something desired.* とある。

O, S, E, Dによると, *a wish. strong wish.* とある。

W, N, I, Dによると, *anything which is desired. an object of longing.* とある。

以上考えてみるに、世俗的な強い欲望を、表わしていると云える。殊に A, C, Dによると、感覚的な欲望を、示す意味も考えられる。

結局, worldly desire は, 世俗的な欲望と云う意味を, 表わしている
と考える。

Nirvana (涅槃) について。

A, C, Dによると, the extinguishment of the restlessness and
heat of one's emotions. freedom from pain, worry and the ext-
ernal world. とある。

O, S, E, Dによると, a state of perfect happiness gained by
devoting oneself to the supreme spirit. とある。

W, N, I, Dによると, Buddhism. the dying out in the heart
of the threefold fire of passion, hatred and delusion. とある。

上の三つを, 比較してみると, 結果的には, 同じ状態であるが, その表
現のニュアンスは, 多少違って居ると思う。即ち, A, C, Dや, W,
N, I, Dに於ては, 不安や, 感情の高ぶりからの, 消滅を意味し, 苦痛
や, 心配や, 迷いや, 表面的な世の中からの解放を 意味している。O,
S, E, Dによると, 最高の精神的なものに, 自分自身を捧げる事によっ
て得られる完全な, 幸福の状態を, 意味している。

VOW (本願, 誓願) について。

A, C, Dによると, a solemn religiously binding promise made
to god or to any deity or saint, as to perform some act, make
some offering or gift, or enter some service or condition. とあ
る。

O, S, E, Dによると, an earnest promise to god. a pledge
of love and faithfulness. とある。

W, E, E, Dによると, a solemn promise or assertion. とある。

W, N, I, Dによると, a solemn promise. one made to God ,

or to some Deity. とある。

以上考えてみるに、A, C, Dにある様に、種々の行為をする事について、神に対して為される崇高な約束、と云う意味になると考える。

主として、宗教用語として用いられていると思う。

blessedness (功德) について。

先づ、形容詞 blessed について考えてみると、

A, C, Dによると、sacred holy. divinely favored. bringing happiness. とある。

W, E, E, Dによると、holy. favored with blessings. happy. とある。

O, S, E, Dによると、holy. happy. successful. とある。

W, N, I, Dによると、holy. worthy of blessing or adoration とある。

以上考えてみると、祝福の価値ある、幸福な、神聖な、と云う形容詞が blessedness と云う名詞になり、神聖な神の祝福に恵まれたもの、と云う意味になると思う。

the law of karma (因果) について。

先づ、karma について述べると、

A, C, Dによると、Hinduism and Buddhism. the cosmic operation of retributive justice, according to which a person's status in life is determined by his own deeds in a previous incarnation. とある。即ち、ヒンズー教用語や、仏教用語であり、人の此の世に於ける身分は、前世の彼自身の行いにより定められ、それにより、応報の結果が表われる正確な働き、と云う事になる。

W, N, I, Dによると、an act of piety or religion. the whole

ethical consequence of one's act considerde as fixing one's lot in the future existence. とある。即ち、将来に於ける人の運命を、定められると思われる人の行いの、全部の道徳的結果、と云う事になる。

次に、law について述べると。

A, C, Dによると、any written or positive rule, or collection of rules, prescribed under the authority of the state or nation. とある。

O, S, E, Dによると、a rule made by a government or a ruler. とある。

W, E, E, Dによると、a custom or rule that a nation or group of people agrees to follow. the whole collection of customs and rules. とある。

W, N, I, Dによると、the binding custom or practice of a community. とある。

以上考えてみると、種々の意味があるが、此の場合、A, C, Dや、W E, E, Dの後の意味のルールのコレクションと考えるのが、適していると思う。

結局、the law of karma は、カーマの集まったもの、と云う意味になると考える。

causality (因縁) について。

A, C, Dによると、the relation of cause and effcct. とある。即ち、原因と結果の関係、と云う事になる。では、cause について述べると、

A, C, Dによると、that which produces an effect. とある。

W, E, E, Dによると、a person or thing that brings about a

result. 又は, a good or sufficient reason for something. とある。

O, S, E, Dによると, anything that produces an effect or a result. とある。

W, N, I, Dによると, that which occasions or effects a result. 又は, that which determines the condition or existence of a thing. とある。

以上考えてみると, 一つの結果を, もたらすもの, 又は, W, N, I, Dによる物の状態や, 存在を決めるもの, と云う意味になると思う。

次に, effect について述べると。

A, C, Dによると, that which is produced by some agency or cause. or power to produce results. とある。

O, S, E, Dによると, the result of a cause. the power which produces some results. とある。

W, E, E, Dによると, an event, condition, or state of affairs that is produced by a cause. the result of something that has been done or has happened. とある。

W, N, I, Dによると, that which is produced by an agent or cause. the event follows immediately from an antecedent. とある。

以上考えてみると, 或る力なり, 原因によって, ひきおこされる物や, 状態, 又は, 一つの結果を生み出す力, 又は, 前の事に続いてすぐ起る事柄, と云う意味になる。

それで, 上述の様に, cause と effect の関係を示すものとして, causality が, 因縁の英訳として, 用いられている。

meditation (禪定) について。

先づ、動詞 meditate について述べると。

A, C, Dによると, to consider in the mind as something to be done or effected. to engage in thought or contemplation. とある。

W, N, I, Dによると, to contemplate. to keep the mind or attention fixed upon. とある。

O, S, E, Dによると, think deeply and seriously. とある。

W, E, E, Dによると, to consider carefully. to spend time in quiet thinking. とある。

以上について考えてみると、為された事や、影響された事を、静かに考える事、或は、そうした状態、又は、そうした事に、時を費うと云う意味である。それで、その様な行為が、meditation となる。

moderation (中道) について。

先づ、動詞 moderate について述べると、

A, C, Dによると, to become less violent, severe, intense, or rigorous, とある。

W, N, I, Dによると, to act as a meditation, to take a middle or meditating view. とある。

O, S, E, Dによると, become less violent, extreme, etc. とある。

W, E, E, Dによると, to become or make less violent or severe. とある。

以上考えてみるに、凡て過度にならない事であり、W, N, I, Dにある中間の物の考え方を、採用する、と云う意味にとれる。そうした行為や状態が、moderation. となる。

ideas-only (唯識) について。

先づ, idea について述べると。

A, C, Dによると, any conception existing in the mind as the result of mental apprehension or activity. とある。

W, N, I, Dによると, a concept. a representation. a presentation of sense. the object of a concept. とある。

O, S, E, Dによると, a mental image. a thought. an opinion or mental impression. とある。

W, E, E, Dによると, something imagined or pictured in the mind. a central meaning or purpose. とある。

以上, 考えてみると, 結局, A, C, Dに述べてある様に, 精神的な理解や, 働きの結果として, 心に存在している概念とか, W, E, E, Dに述べてある, 心に考え画かれたもの, と云う意味になると思う。

次に, only について考えると, 此の場合, 副詞用法として, 考えた方がよいと思う。

A, C, Dによると, without others or anything further. alone. solely. singly. as the only one. とある。

O, S, E, Dによると, no one or nothing more. merely. solely. とある。

W, N, I, Dによると, no or nothing more or other than. merely. solely. とある。

W, E, E, Dによると, as a single fact or instance and nothing more or different. exclusively. とある。

以上, 考えてみると, 上の様に多くの意味があるが, 結局, 他の何物でもない, ただそれだけで, と云った意味になると思う。

そこで、ideas-only は、上に述べた idea, それだけで、事进行处理していく、と云う意味になると思う。

以上、仏教聖典 (The teaching of Buddha) 中の英訳の仏教用語の中、その一部について、語義の上から、文献を参照しながら、述べた次第である。

Bibliography:

- The teaching of Buddha, 仏教伝道協会, ToKyo.
American College Dictiouary, Random House, New YorK.
Webster's Essential English Dictionary,
Encyclopaedia Britannica (Japan), inc.
Webster's New International Dictionary,
Merriam Company, U. S. A.
Obunsha's Senior English Dictionary,
The Obunsha, ToKyo.
Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary,
The Kenkyusha, Tokyo.
新仏教辞典, 誠信書房, Tokyo.